

介護職リーダー育成プログラム

OJT の計画と実践

【通学 1 日目】 14:00～16:30

【通学 2 日目】 14:00～16:30

OJT

人材育成法の種類と特徴

<育成方法>

OJT (on the job training)	日常の業務の中で実践力を高める
Off-JT (off the job training)	仕事を離れた研修で知識や技能を高める
SDS (self development system)	職場外で自己啓発。通信教育など。
SJT (self job training)	職場内中で自己学習。職場内に指導者や設備を整備する

<育成内容>

知識	知っておかないといけないこと
技術	できるようにならないといけないこと
態度	仕事に取り組む姿勢

<OJTの長所と短所>

長所	短所
具体的・実地的訓練ができる 継続的・反復的な実施ができる 経費が少ない 教育を受けながら日常業務が継続できる 上司や先輩が指導者であることで職場での協調や信頼関係が促進される 一般化されないその職場に特有な環境や手法などについて習得することができる 新人教育を通じてリーダーの能力向上につながる	教える上司・先輩の考え方や教育方法に大きく影響される 理論が学習できない 複雑な内容や応用させたりする作業には向かない 真似をして習得させる徒弟制になりやすい 技術の評価がされないことがある 計画的な教育が行われないことがある

Off-JTの長所と短所

長所	短所
多くの人を同時に教育できる 特定分野の高度な知識や情報が得られる 受講者間の情報と知識交流ができる 実務経験の体系化を助ける 教育担当者の負担が減る	教育レベルが平均的受講者になるので中途半端になる 集合教育なので全員を集めることが困難 訓練を実務に生かす工夫が必要

<4 つの手順>

- ①やってみせる：仕事の流れや全体像をわかってもらいます。言葉で説明するのではなくイメージにします。
- ②説明する：仕事の流れや動作をわかりやすく言葉で説明しましょう。言葉にすることが大切です。
- ③やらせてみる：しっかり横について見守ります。
- ④評価や指導を行う：やったことをほめます。そして、できていないことを指導します。また、なぜその流れや動作なのか根拠を示すとより効果的です。

<3 原則>

- ①意図的であること：トレーニングの目的を明確に持つこと。
- ②計画的であること：計画に基づいたトレーニングであること。
- ③継続的であること：反復的に段階的にトレーニングが実行されること。

OJT の進め方

- ①OJT の対象となる業務の作業と作業上の注意点を挙げる
- ②OJT の対象となる業務レベルを分ける
- ③OJT の対象者となる職員の現状レベルを把握する
- ④OJT の計画を立案する（PLAN）
- ⑤計画に基づいて職員に OJT を実施する（DO）
- ⑥OJT を実施した後の職員の到達レベルを評価する、OJT 計画の評価を行う（SEE & CHECK）
- ⑦OJT 計画を改善する（ACTION）

Aさんは、今年26歳男性。大学を出て4年間地元のスーパーマーケットで働いていました。4年目は副店長の仕事に就いていましたが、近くに大きなショッピングセンターができ将来の不安を感じ、中学生の頃から興味があった介護職に転職しました。介護の仕事は初めてです。

あなたは施設長からAさんの教育を任されました。「見習い修業」的に先輩から技術を盗み「介護」を学んできたあなたは、Aさんに目標を持って計画的に技術を身につけさせてあげたいと思い、OJTの導入を提案し施設全体で取り組むことが決まりました。

課題1

施設長から、「Aさんを1年間かけて育て、2年目は夜勤（サブ）のシフトに入れるように欲しい」との依頼がありました。そこで、1年後のAさんのあるべき姿（目標）を立てることにしました。以下の、「能力ユニット一覧」の各項目について、例に従ってグループで分担して能力目標を立ててください。介護サービスの介助や口腔ケアについては、「介助準備」「介助」「介助後」に分けて、具体的な作業を細かくあげてください。

＜能力ユニット一覧＞

サービス提供のための準備	
入所・退所支援	
介護サービス	移動・移乗介助・体位変換
	入浴介助
	食事介助
	排泄介助
	更衣介助
	口腔ケア
	レクリエーション、アクティビティ
	看取り介護
認知症ケア	
環境整備	
施設内巡回、見守り	
サービスの向上・改善	
利用者、家族への情報提供	

分担例)

Aグループ：サービス提供準備、介護サービス（移動・移乗・変換、食事、口腔ケア）、認知症ケア

Bグループ：入所・退所支援、介護サービス（入浴、更衣）、環境整備、見守り

Cグループ：介護サービス（排泄、レク、看取り）、サービス向上、情報提供

例) サービス提供のための準備

(能力ユニット) サービス提供のための準備
(目標能力) 利用者情報を確認し、必要な準備を的確に行う

能力	能力基準（具体的に）
利用者情報把握	利用者の身体状況や生活状況等を・・・
新規利用者対応	新規利用者の受け入れに際して、・・・
入所希望者対応	見学を希望する利用者や家族に対して、・・・

例) 入所・退所支援

(能力ユニット) 入所・退所支援
(目標能力) 入所・退所支援を的確に行う

能力	能力基準（具体的に）
入所支援	入所に際し・・・
退所支援	退所に際し・・・

例) 移動・移乗・体位変換

(能力ユニット) 移動・移乗・体位変換
(目標能力) 移動・移乗の援助や体位変換により、利用者の快適な生活を支えるとともに、自立支援を行う

能力	能力基準（具体的に）
移動・移乗・体位変換の準備	車いすの点検（タイヤの空気・ブレーキ点検・レットレスト点検）ができる。 ．．．．
移動・移乗・体位変換	杖歩行の利用者には、．．． 車いすの利用者には、．．． 体位変換の際、．．．
移動・移乗・体位変換後の注意事項	移動移乗変換後に、．．．

例) 入浴

(能力ユニット) 入浴
(目標能力) 利用者の快適で安全な入浴を援助する

能力	能力基準（具体的に）
入浴の準備	入浴の準備．．．．
入浴	洗体の際に、．．．． 湯舟への移動介助の際に、．．．
入浴後の注意事項	入浴後、．．．

例) レクリエーション・アクティビティ

(能力ユニット) レクリエーション・アクティビティ
(目標能力) レクリエーション・アクティビティを企画実行する

能力	能力基準（具体的に）
レクリエーション・アクティビティの企画・準備	．．．．
レクリエーション・アクティビティの実施	．．．．
レクリエーション・アクティビティの検証	．．．．

例) 看取り介護

(能力ユニット) 看取り介護
(目標能力) 利用者の尊厳を守った看取り介護を行う

能力	能力基準（具体的に）
看取り介護の準備	．．．．
看取り介護	．．．．
看取り介護の検証	．．．．

例) 認知症ケア

(能力ユニット) 認知症ケア
(目標能力) 利用者の尊厳を守った認知症ケアを行う

能力	能力基準（具体的に）
認知症ケアの知識	．．．．
認知症ケア	利用者を否定したり、叱ったりすることなく．．．
ご家族との関わり	．．．．

例) 環境整備

(能力ユニット) 環境整備
(目標能力) 利用者の安全・安楽を確保する環境整備を行う

能力	能力基準（具体的に）
環境整備の知識	施設内の危険箇所．．．． 感染症に対する．．．
環境整備	清潔保持のため、．．． 物品の点検を行い．．．

例) 定期巡回・見守り

(能力ユニット) 定期巡回・見守り
(目標能力) 利用者の安全を確保する定期巡回・見守りを行う

能力	能力基準（具体的に）
定期巡回・見守りの準備	．．．
定期巡回・見守り	決められたルートやチェックを行い．．．．

例) サービスの向上・改善

(能力ユニット) サービスの向上・改善
(目標能力) 提供したサービスの内容・方法等について検証し、サービスの質の向上、改善を図る

能力	能力基準（具体的に）
サービスの振り返り	サービス計画に対する・・・ 利用者の立場に立った・・・
サービスの向上・改善	利用者の状況に合ったケアの方法を・・・

例) 利用者、家族への情報提供

(能力ユニット) 利用者、家族への情報提供
(目標能力) 利用者、家族への情報提供や介護相談の橋渡しを的確に行う

能力	能力基準（具体的に）
利用者、家族への情報提供	利用者やご家族に対し・・・
相談対応	利用者や家族から相談を受けた場合、・・・

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

(能力ユニット)
(能力)

能力	能力基準

GW振り返りシート

月 日 氏名

今回の演習で新たにわかったこと、気づいたことを3つ挙げてください。

This image shows a single sheet of white paper with rounded corners, framed by a black border. It features three horizontal black lines spaced evenly apart, serving as guides for writing. The paper is otherwise blank, with no text or other markings.

今回の講義でできなかったことをひとつ挙げてください。

今回の講義でできなかったことをできるようにするために、どのようにしていきますか。具体的に挙げてください。例）2回発言する、全員の目を1回ずつみて話すなど、できれば数字を用いて具体的に。

課題 2

課題 1 で設定した目標能力表を、他のグループと交換します。そして、修正・訂正・追加をした改訂版を作成します。

ポイントは、挙げられた能力項目で第三者評価が行えるかどうかです。例えば、「入浴後の水分補給を心がける」では評価ができません。「入浴後に水分補給を毎回必ず行っている」は評価ができます。また、「夜勤業務の内容を理解している」は、「夜勤業務の内容が順を追って説明できる」にすると評価ができるようになります。「利用者とコミュニケーションを積極的にとる」を、「一日 3 回利用者の名前を呼ぶ」にすると評価ができます。

このように、「こころがまえ・気持ち・姿勢」でなく、「目に見える具体的な行動」を目標にします。

課題 3

課題 3 で完成した目標能力項目を、1 ヶ月後、3 カ月後、6 カ月後、9 カ月後、12 カ月後の目標にわけてください。能力基準は、簡単な言葉を使い一目でわかるよう 1 行で書いてください。

このようにして、12 か月後に目標能力を達成させるプロセスを明確にしていきます。

例)

能力	能力基準	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月	9 ヶ月	12 ヶ月
入浴準備	浴室内の準備ができる	○				
	浴室内の室温調整ができる	○				
	浴槽内の湯温の確認ができる	○				
入浴介助	自立利用者への誘導ができる	○				
	湯船への移動介助ができる		○			
	正しい順番で洗体ができる		○			
	利用者の体調変化を記録する	○				
	ヒヤリハット報告ができる		○			
	・・・				○	

GW振り返りシート

____月 ____日 氏名 _____

今回の演習で新たにわかったこと、気づいたことを3つ挙げてください。

今回の講義でできなかったことをひとつ挙げてください。

今回の講義でできなかったことをできるようにするために、どのようにしていきますか。具体的に挙げてください。例) 2回発言する、全員の目を1回ずつみて話すなど、できれば数字を用いて具体的に。

課題 5

課題 4 で作成した目標管理シートに従って、みなさんの職場で実践します。

6カ月後、12 か月後に現場で計画のチェックと修正や追加・改善を行っていきます。

新人職員の「やらされている感」をなくすためには、当事者意識を持ってもらうことが大切です。そのため、OJTプログラムはリーダーが一方向的に決めるのではなく、OJTを受ける新人職員と話し合っ目標を確認しながら行っていくことが理想です。

施設介護サービス：共通：職業倫理とコンプライアンス：レベル1～2

能力細目	
①介護保険法、関係法令、諸ルールの内容の把握	施設の理念、経営方針、行動基準、諸規定等を把握している。
	介護サービス業に携わる者としての職業倫理(守秘義務、個人情報保護、情報開示、尊厳、人権擁護等)を把握している。
	介護保険法、およびその他関連法規(老人福祉法、社会福祉事業法、障害者自立支援法、成年後見、権利擁護、虐待防止等)について、法律の趣旨、内容、解釈等の基本事項を理解しており、これに基づき業務における問題や課題を把握している。
	介護業界全般に関する法的または倫理的な事項について、過去に問題となった事例(例:各法令に抵触する事例、人権侵害にあたる事例等)を把握し、その着眼点や自施設に及ぼす影響を理解している。
②介護保険法、関係法令、諸ルールの遵守	職業人としての自覚や社会的責任感をもって仕事に取り組んでいる。
	施設の理念や方針を踏まえた行動をとるとともに、諸規定を遵守している。
	日常業務の遂行において、法的または倫理的な問題に直面した場合、自分の権限で判断して良いこととそうでないことを区別し、自身で問題解決すべきことは適切に問題解決するとともに、上位者に的確に報告・連絡・相談している。
	不測の事態に面しても、冷静な現状分析に基づき、適切に問題解決を行っている。
③コンプライアンス・マネジメントの推進	下位者に対して、施設の理念や経営方針、社内規定や諸ルール、職業倫理の徹底を図っている。
	施設が整備した業務マニュアル(サービスマニュアル、管理規定、利用者対応マニュアル等)に従い、業務を運営していくよう、OJT、勉強会、個別指導等を通じて、管理・徹底している。

施設介護サービス：共通：チームワークとコミュニケーション：レベル1～2

能力細目	
①上位者や同僚との連携による職務の遂行	自分で判断して良いこととそうでないことを区別し、自身で問題解決すべきことは適切に問題解決を行うとともに、適切に上位者に報告・連絡・相談を行っている。
	上位者の指示や指導に沿った行動をとっている。
	対人場面において、率先して接遇マナーを守って行動している。
	利用者や家族のクレームに対して必要な一時対応を行ったうえで、速やかに上位者に報告・連絡・相談している。
	チームの目標達成や業務の効率化のために、他のスタッフと連携・協力しながら、業務を遂行している。
	チームのまとめ役として、他のスタッフとのコミュニケーションに努め、協力的な職場環境づくりに取り組んでいる。
②他部門との連携による職務の遂行	関連各部門との業務上の連携の重要性を理解し、率先して連携や調整の円滑化を図っている。
	人的ネットワークや情報収集ルートの拡大に積極的に取り組んでいる(例:会議や研修等の機会を通して、施設の責任者クラスと顔見知りになる等)。
	他部門と意見が異なる問題についても、関係者の意見を調整しながら適切に問題を解決している。

施設介護サービス：共通：外部、関係機関との連携：レベル１～２

能力細目	
①情報収集と関係構築	サービスの実施に必要な知識や情報を、どこから、どのように集めたらよいのか、概要を把握している。
	講習会や勉強会、セミナー等に積極的に参加し、情報収集と自己研鑽に努めている。
	必要に応じて、介護保険法および関連制度等について外部に問い合わせるなど、適切に情報収集を行っている。
	近隣住民との関わりや挨拶等を適切に行い、良好な関係を保っている。
②地域や関係機関との連携	緊急の際は、上位者の指示やマニュアルに従って、利用者家族、消防、警察等に対する連絡を的確に行っている。
	地域の避難場所の確認など、必要に応じて、行政機関等の担当者との連絡・調整を適切に行っている。

施設介護サービス：共通：目標管理：レベル１～２

能力細目	
①目標設定	施設の目標・方針、および自部門の目標・方針を正確に理解し、上位者の助言や指導を受けて、担当業務に関する目標設定を適切に行っている。
	設定した目標を達成するために、実現可能な実行計画を適切に作成している。
	上位者の助言を踏まえ、自らのキャリア・プランに即して、当面の能力開発目標を設定している。
②進捗管理	実行計画に沿って、チームで連携をとりながら、業務を推進している。
	自分に与えられた役割は、最後まで責任をもってやり遂げている。
	予定通り仕事が進まない場合には、早めに上位者に報告・連絡・相談している。
③成果の検証	目標の達成度、および成果について、結果だけではなくプロセスも検証し、次の目標設定や軌道修正に生かしている。

施設介護サービス：利用者の安全衛生の確保・トラブルの未然防止：レベル１～２

能力細目	
①サービス提供 時におけるリスク の理解	サービス提供時において想定されるリスク(利用者の安全性に関するリスク、サービスの適切性に関するトラブル、人的トラブル、物理的トラブル、金銭的トラブル等)について基本事項を理解している。
	問題やトラブルを未然に防ぐため、施設が講じている施策を理解している。
	過去に現場で起きた問題やトラブルの事例を理解している。
	身体拘束に至る背景や原因、身体拘束をなくしていくための対応策について理解し、施設が定める方針を正確に把握している。
	利用者の生活、心身の状況、生活背景など、適切なサービス提供を行ううえで必要な情報を把握している。
②利用者の安全 衛生の確保、トラ ブルの未然防止 のための対応	個人情報保護の重要性を認識し、その取り扱いに関して細心の注意を払っている。
	利用者の安全確保やトラブルの未然防止に向けた業務マニュアルや規定集等、現場で活用できるツールの開発の補助を適切に行っている。
	利用者への感染防止等に留意し、施設の業務マニュアルに従って、手洗い・消毒、予防着・手袋の着用・交換、感染媒体・感染源の除去・消毒など衛生面での対応を日々確実に実施している。
	利用者に、どのような感染症の既往があるか正確に確認し、周囲と情報を共有している。
	起きてしまったトラブルだけでなく、現場での「ヒヤリ・ハット」も含めて、適切に上位者に報告・連絡・相談している。
③トラブル発生時 の対応	決められた手順に則り、緊急時の一時対応措置を的確に行っている。
	事故やトラブルの発生時には、速やかに、かつ、正確な状況を上位者や関係者に伝えている。
	身体拘束や行動制限が行われている場面に遭遇した場合には、速やかに上位者等に報告・連絡・相談して指示を仰いでいる。
	緊急やむを得ず身体拘束や行動制限を行わなければならないような状況に直面した場合には、速やかに上位者等に報告・連絡・相談して指示を仰いでいる。
	施設や部門が推進する再発防止策を正しく理解し、積極的に実行している。

施設介護サービス：ケアマネジメント：レベル1～2

能力細目	
①アセスメント	アセスメント(利用者のニーズや目標、身体状況、精神状態、生活状況等の確認)、ケアプラン作成、各サービス計画の関係や流れを理解している。
	上位者の指示・助言や利用者情報を踏まえ、利用者のニーズや目標、身体状況、生活状況等について、正確に把握している。
	アセスメントを行うために必要な観察・記録、情報伝達、質問、傾聴に関する技術の習得に取り組んでいる。
②ケアプランの作成	上位者とともに利用者の介護ニーズや暮らしぶり、価値観、生きがい等について十分にお話を聴き、ケアプランの作成を補佐している。
	ケアプラン作成のためのサービス担当者会議に参加し、他のスタッフと情報を共有している。
	ケアプランの作成に向けて、他のスタッフや利用者、家族等への事務連絡を適切に行っている。
	ケアプランの作成に際して、利用者の権利擁護やプライバシー、中立・公平等に厳格な配慮を行っている。
③ケアプランの実行	ケアプランに沿って介護サービスを実施している。
	計画通りに実施できているか確認しながら介護を行っている。
④モニタリングと評価	ケアプランに基づく介護サービスの実施状況に留意し、問題に気づいた場合には速やかに上位者に報告・連絡・相談している。
	ケアプランに変更があると感じた場合には、上位者や関係者に対して自分の意見を適切な形で伝えている。
⑤ケアマネジメントの支援	アセスメント、ケアプランの作成、実行、モニタリング・評価など、一連のケアマネジメントが適切に行われるよう、現場に対して必要な支援を行っている。(本人の職責上、直接アセスメントを行わない場合に本基準を適用)

施設介護サービス：サービス提供のための準備：レベル1

能力細目	職務遂行のための基準
①利用者基本情報の把握	ミーティング、回覧、朝の申し送り等により、事前に利用者の身体状況や生活状況等を確認している。
	サービスを実施する上で、不明な点や疑問点については、上位者や他のスタッフ等、しかるべき人に確認している。
	医療やリハビリ、療養等が必要な利用者については、ケアを行ううえでの留意事項や報告事項等を上位者に確認し、正確な情報を共有している。
②初回アセスメント	新規利用者の受け入れに際しては、入居時間、手順等の確認を確実にやっている。
	見学を希望する利用者や家族に対して、所内の案内や、サービスやプログラム内容の説明等を適切に行っている。

施設介護サービス：入所退所支援：レベル1

能力細目	職務遂行のための基準
①入退所時の準備	事前に、新規利用者の名前、身体状況、介護上の注意点など基本的な事項を確認している。
	入退所の際に利用者に伝達すべき事項や確認すべき事項等をもれなく伝達・確認している。
	利用者の個別の状態に合わせた環境整備および居室準備を行っている。
②入退所支援の実施	入退所の際に利用者の持参品、貴重品をチェックするなど、持ち物管理を的確に行っている。
	入退所の際に利用者の状態を把握し、降車、歩行、移動、移乗、靴の履き替え、着替え等、必要に応じて適切な介助を行っている。
	利用者の出迎えや居室への案内の際、利用者の安全、安心、安楽に気を配っている。
	入所の際、利用者に積極的に話しかけるなど、利用者の緊張を解すよう気を配っている。
	入退所時に、利用者の家族とあいさつ等の基本的なコミュニケーションを行っている。

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：移動・移乗介助、体位変換：レベル1～2

能力細目	
①移動・移乗、 体位変換の準備	<p>移動・移乗に必要な福祉用具(車イス、杖、補装具、歩行器等)の扱い方に関する基礎知識を有し、点検・準備を確実にやっている。</p> <p>(例:車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分か等。)</p> <p>移動ルートを確認し、安全に移動できるよう配慮している(例:移動の障害となる物品を移動させる、照明をつける、スロープを確保する等)。</p> <p>利用者の状態・状況を把握し、利用者に移動・移乗の行き先、方法等について効果的に声かけしている。</p> <p>利用者の状態・状況を把握し、利用者に体位変換について効果的に声かけしている。</p>
②移動・移乗、 体位変換	<p>身体機能や症状に合わせた移動・移乗介助、体位変換に関する知識を有し、自力での安全確認ができない利用者、歩行困難な利用者等の個別の状態に合わせた移動・移乗介助、体位変換を安全に行っている。</p> <p>利用者の疾病等に応じて体調や顔色を確認したうえで、利用者の状況に合わせて、利用者を側臥位にする、テコの原理を活用する等しながら無理のない起居の介助を行っている。(例:全介助が必要な利用者の上体がカーブを描くように起こす、一部介助が必要な利用者について、利用者の残存機能を活かしながら起居の支援を行う等。)</p> <p>一部介助が必要な利用者には、身体状況に応じた方法で、声かけ、介助を行い車いすへの移乗を行っている。(例:利用者に健側の手でベッドから遠い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらう等して、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがってもらう、利用者の健側の足を軸にして体を回転させる等。)</p> <p>全介助が必要な利用者には、移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整するとともに、利用者の足底がついた状態で介助を行い、利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手をまわしてもらう等、移乗がしやすい体勢をとって移乗している。</p> <p>福祉用具(スライディングボードやスライディングシート等、移乗用リフト等)を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗している。</p> <p>移動・移乗介助の際は、移動のペースが利用者に合っているか、利用者の身体状況に合った介助になっているか、利用者に不安はないか等、声かけ・観察により確認しながら、適切に行っている。</p> <p>杖歩行の利用者には、利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ち、二動作歩行や三動作歩行の声かけを行い、急がせず、利用者のペースに合った介助・誘導を行っている。</p> <p>利用者の状態に応じて安全、安楽に配慮して身体に摩擦を与えないように体位変換を行い、クッションやタオル等を使用し安楽な体位保持への介助を行うとともに、皮膚状態等を観察、確認し、適切な対応を行っている。(例:利用者の膝を立てテコの原理を活用しながら体位変換する、横向きになることができる人には自力で横になってもらう・膝を曲げられる人には自分で曲げてもらうなど、利用者の残存機能を活かしながら体位変換する等。)</p> <p>ADLの維持や向上を視野に入れた福祉用具の導入等について提案・実施している。</p>
③移動・移乗、 体位変換後の介助	<p>移動で使用した福祉用具の安全確認の点検を行い、所定の場所に確実に戻している。</p> <p>移動・移乗または体位変換後、利用者の安全、安楽、体調、疲れを確認するとともに、快適に過ごせるように、環境整備に配慮している。</p>

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：入浴介助：レベル１～２

能力細目	職務遂行のための基準
①入浴準備	<p>浴室内の準備(シャンプー、石鹸、洗面器等必要な物品、浴室内の室温調整、湯温の確認等)を確実にやっている。</p> <p>脱衣所の準備(脱衣カゴ、着替え、排泄用具等必要な物品の用意、脱衣室内の室温調整等)を確実にやっている。</p> <p>入浴時の事故防止を心がけた環境整備を推進している。</p> <p>バイタルサインの測定や利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴や清拭の可否について確認している。</p> <p>バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態や希望に応じた入浴方法を選択している。</p> <p>スクリーンやバスタオルを使いプライバシーに配慮し、健側から患側の順番で脱衣を行うとともに、ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促している。</p>
②入浴介助	<p>特殊浴槽による入浴介助の知識を有し、特殊浴槽利用者の洗体介助、専用車椅子を利用した移動介助、入湯中の安全確認を適切に行っている。</p> <p>洗体、洗髪、洗顔等、基本的な洗いの知識を有し、利用者の状態(皮膚や頭皮の状態等)に合わせて、適切な手順や方法で介助を行っている。</p> <p>末梢から中枢の順番で洗体を行い、陰部は健側の手で洗ってもらう等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促している。</p> <p>浴槽に入る時は、利用者に手すり等をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支えて介助している。</p> <p>簡易リフト等の入浴機器を用いて入浴する場合には、利用者の身体的位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に介助している。</p> <p>入浴時のリスクを把握し、安全確認を適切に行っている。</p> <p>入浴中は、入浴時間(湯に浸かっている時間)をチェックし、利用者の体調変化や安全に常に気を配っている。状態の変化がある場合は、すみやかに上位者または医療職等に報告し、安全・安楽にサービスを提供するための手順や方法等について提案・実施している。</p> <p>じょくそうや皮膚の病気、体の状態に関する知識を有し、利用者の全身状態等から、利用者の健康状態を観察し、適切に対応している。</p> <p>入浴中は、湯温やシャワーの温度、室温等、利用者の快適性に常に気を配っている。</p> <p>利用者が入浴を楽しめるよう、適切な声かけやコミュニケーションをとりながら介助を行っている。</p> <p>スクリーンやバスタオル等を使いプライバシーや保温に配慮し、末梢から中枢の順番で拭く等、適切な手順で清拭を行っている。</p>
③入浴後の介助	<p>声かけを行いながら、体を拭き、着衣、髪を乾かし整髪を行う等の一連の介助を、利用者のペースに合わせて適切かつ安全に行っている。</p> <p>入浴後、利用者の体調に変化がないか確認するとともに、水分摂取、休息等を促し、快適に過ごせるように配慮している。また、利用者が湯冷めしないように留意している。</p>

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：食事介助：レベル1～2

能力細目	
①食事の準備	衛生面に気をつけて、手洗い、うがい、身支度を確実かつ迅速に行っている。
	利用者の ADL、利用者同士の相性など細かな点まで考慮して、適切な席決めを行っている。
	おしぼり、エプロン、水分摂取の道具等必要な物品を確実かつ迅速に準備、配布している。
	利用者の名前および注意事項(服薬等)を確認し、誤配膳がないか確認している。(例:嚥下障害のある利用者の食事に適切なとろみをつける、禁忌食の確認をする、飲み込むことができる食べ物の形態かどうかを確認する等。)
	声を掛けたり肩を叩いたりするなどして利用者の覚醒状態を確認している。
	利用者が安全・安楽に食事ができるような姿勢に配慮している。(例:食べやすい座位の位置にする、体幹の傾きはないか等座位の安定を確認する、テーブルの高さを調整する等。)
	利用者が顎が引けている状態で食事が取れるようにしている。
②食事介助	食事の献立や中身を利用者に説明する等食欲がわくように声かけを行い、食事をとる楽しい雰囲気づくりを心掛けている。
	食事介助に関する基礎知識、嚥下や咀嚼に関する基礎知識を有し、比較的介助が必要な利用者、視覚障害の利用者に対して、安全に食事介助を行っている。利用者のペースに合わせて、あせらず、ゆっくり介助している。
	利用者の食べたいものを聞きながら利用者と同じ目線の高さで介助し、しっかり咀嚼して飲み込んだことを確認してから適切な量の次の食事を口に運んでいる。
	自力での摂食を促し、必要時に介助を行っている。
	個々の利用者の ADL、嗜好、食事制限等を把握し、主に担当している利用者だけでなく他の利用者の体調変化、嚥下・咀嚼の状況等にも目を配り、安全に気をつけている。
	誤嚥・窒息の際の対応方法についての知識を有し、異常時には迅速に上位者、医療職等に報告、連絡し、適切な方法で対応している。
	利用者の摂取した食事・水分の量やかかった時間、誤嚥の有無、服薬状況等を正確に記録するとともに、必要に応じて上位者、医療職等に報告している。
③食後の介助	ADLの維持や向上を視野に入れた食事方法や自助具の導入、手順等について提案・実施している。
	食事が済んだら自力での下膳を促し、必要に応じて介助を行い、食事後のケアを適切に行っている。(例:利用者の口や手をふく、歯磨き・うがいや口腔ケア等。)
	食後しばらくは、利用者に安全・安楽な姿勢で休憩してもらっている(例:休憩、必要な場合には静養室での午睡等)。

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：排泄介助：レベル1～2

能力細目	
①排泄準備	清潔行為、不潔行為に関する基本的知識を有し、衛生面に気をつけ、手洗い、感染予防のための手袋着用等を確実にしている。
	排泄器具・補助装具に不備がないか確認している。
	利用者の排泄のリズムやパターンを確認し、排泄介助に当たっては介助内容を伝えて利用者の同意を得ている。
	利用者のADLを把握し、排泄する上で、できる部分は利用者によってもらうようにしている。
	利用者に尿意、便意の有無、排泄した感じの有無を聞き、おむつ・パッドを換えることなどの介助内容を伝え、承諾を得ている。
②排泄介助	身体機能や症状にあわせた排泄介助に関する知識を有し、利用者の個別の状態に応じて、適切な方法で排泄介助を行っている。
	トイレ（ポータブルトイレ）で、利用者の足底がついているか、前屈姿勢がとれているか等座位の安定を確認している。
	トイレ（ポータブルトイレ）での排泄の際、カーテンやスクリーンを使用したり、排泄時にはその場を離れ、排泄終了時には教えてくださいと説明する等してプライバシーに配慮している。
	ズボン、下着を下ろす了承を得て、支えながら下ろしている。
	排泄後、利用者にトイレットペーパー等で拭いてもらい、拭き残しがあれば清拭を行うとともに、利用者の手洗いを見守る等により清潔保持をしている。
	おむつ・パッド交換の際、カーテンやスクリーンを使用する等してプライバシーに配慮している。
	おむつ・パッド交換時、陰部洗浄や清拭を行い、清潔保持を行っている。
	おむつ・パッドを適切に装着し、衣服、寝具等にしわがないように整えている。
	じょくそうや皮膚の病気、排泄物の状態に関する知識を有し、利用者の皮膚の状態や排泄物の状態等から、利用者の健康状態を観察し、適切に対応している。
③排泄後の介助	排泄終了後は、手洗いを確実に行う等、衛生面に留意している。
	排泄物の処理を適切に行っている。（例：使用済のオムツを適切に処理する等。）
	オムツ交換やポータブルトイレの場合、使用したタオルや洗浄ボトル等の片付けやポータブルトイレの洗浄等を確実にしている。
	必要に応じて換気を行うなど、環境整備を行っている。

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：更衣介助：レベル１～２

能力細目	
①更衣準備	更衣介助にあたって、利用者に声かけを行っている。
	体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋服を選んでもらっている。
	更衣する衣類等を確実に準備し、破れやほつれ等の確認をしている。
	更衣を行う場所の気温を確認し、利用者に移動を促し、利用者の身体状況や姿勢に配慮している。
②更衣介助	麻痺や拘縮、関節可動域、疼痛に関する知識を持ち、利用者の個別の状態に応じて、適切な方法で更衣介助を行っている。
	利用者のプライバシーに配慮している(カーテンを閉める等)。
	脱衣の際には健側から患側の順番で、着衣の際には患側から健側の順番で行っている。
	ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促している。
	洋服にしわやたるみがないか確認している。
	じょくそうや皮膚の病気、体の状態に関する知識を有し、更衣介助にあたって、利用者の皮膚の状態等から、利用者の健康状態を観察し、適切に対応している。
③更衣後の介助	脱衣後の衣類は丁寧に折りたたみ、所定の場所に収納するなど適切に取り扱っている。

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：口腔ケア：レベル1～2

能力細目	
①口腔ケアの準備	衛生面に気をつけ、手洗い等を迅速かつ確実に行っている。
	口腔ケアに必要な物品(液状歯磨き、お茶、ガーグルベース、コップ等)を確実に準備している。
	口腔ケアを行う場所への移動を促し、利用者が安全・安楽に整容ができるような姿勢に配慮している(イスや車イスの座位姿勢に無理はないか等)。
②口腔ケア	身体機能や症状にあわせた口腔ケアに関する知識を有し、利用者の個別の状態に応じて、口腔ケアを行っている。
	利用者の身体機能や症状、状態に合わせて、適切な口腔ケアの方法を選択している。
	利用者のプライバシーに配慮している。
	自力で歯磨き・うがい、義歯の洗浄等ができる利用者に対しては、声かけを行いながら自力で行ってもらい、状況を確認して必要に応じてサポートしている。
	うがいができない利用者については、専用物品等を用いて口腔内を清潔に拭いている。義歯を用いている利用者については、利用者に声かけしながら義歯を外し、汚れ、破損等を確認したうえで、決められた手順で洗浄を行っている。
	利用者の状態に合わせて、口腔リハビリ(嚥下体操、頬マッサージ等)を行っている。
	利用者の残存機能、動作能力を把握し、自立を考えた口腔ケアを行っている。
	口腔内の状態や病気に関する知識を有し、利用者の口腔の状態等から、利用者の健康状態を観察し、適切に対応している。
③口腔ケア後の介助	口腔ケア後は、手洗い、物品の扱い等、衛生面に留意している。
	利用者に声かけをし、通路の確認をし、安全に居室等まで誘導を行っている。

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：レクリエーション・アクティビティ：レベル1～2

能力細目	
①レクリエーション、アクティビティの企画・準備	レクリエーション、アクティビティの意義・目的や種類および自分の役割を理解し、担当者として企画、運営している。
	ADLの維持や向上を視野に入れ、利用者の意欲や自信を効果的に導き出せるような企画を立案している。
	レクリエーション、アクティビティの計画書に沿って、必要な道具や物品を、確実に効率的に準備・調達している。
	レクリエーション、アクティビティの準備にあたっては、利用者の意欲や楽しさを引き出すことができるような工夫を行っている。
	外出を伴う場合は、事前に行き先やルートの下見を行い、安全を確認している。当日は、利用者の体調を確認して外出の可否および天候を確認した上で、持ち物、服装等、適切な準備を行っている。
②レクリエーション、アクティビティの実施	レクリエーション、アクティビティの計画に沿って、安全に実施している。
	利用者の意欲や楽しさを引き出すアプローチを行っている。(例：声かけや盛り上げ役を行う、スタッフも一緒に楽しむ、手伝いすぎない等。)
	常に利用者の体調変化や安全に気を配っている。また、利用者が本当に楽しめているかどうか、表情を観察・確認している。
	レクリエーション、アクティビティで使用した道具や物品を、確実に後片づけしている。(例：自力でできる利用者には片付けてもらう、必要に応じて介助を行う等。)作品等は、誰のものか分かるようにしておき、引き続きの作業を要する物については、状態を損ねないように配慮している。
	レクリエーション、アクティビティ終了後は、利用者の体調に変化がないか確認するとともに、水分摂取、休息等を促し、快適に過ごせるように配慮している。
③レクリエーション、アクティビティの効果の検証	レクリエーション、アクティビティ終了後、利用者の満足度や意見を聞いたり、自身としてうまくいったこと、いかなかったことを振り返り、次の企画に活かしている。

施設介護サービス：施設介護サービスの実施：看取り介護：レベル1～2

能力細目	
①看取りの準備	看取りの段階について把握している。
	看取り介護におけるチームケアを理解し、他職種との連携を図っている。
	看取りのケアプランについて理解し、個別の状況を把握している。
	看取り期の連絡体制について把握している。
	利用者の ADL、余命、告知・無告知の把握をしている。
	利用者・家族の看取りの場所の希望について把握している。
	利用者の痛みやその他の不快な身体症状の変化があった場合に備え、その際の対応についてあらかじめ医療機関または医療職と打合せをしている。
②看取り介護	利用者の状況に応じて、きめ細かく食事、排泄、生活保持に関する介護を提供している。
	身体的、精神的緩和ケアについて理解し、安楽な体位を工夫する等の緩和ケアを行うとともに、利用者の痛みやその他の不快な身体症状の変化をとらえ、医療機関または医療職に連絡している。
	利用者の自己決定や家族の希望を最大限尊重している。
	利用者、および家族とコミュニケーションを十分にとり、質問や相談について適切に対応している。
	きめ細かく状態観察を行い、食事・水分摂取量を把握し、浮腫、尿量、排便量等をチェックして経過をきめ細かく記録している。
	利用者の状態の変化を正確に記録し、定期的カンファレンスに参加して他職種と情報を共有している。
③看取り介護の振り返り	看取り介護の内容や利用者、家族の状況等について、チーム内で振り返りを行っている。

施設介護サービス：認知症ケア：レベル1～2

能力細目	
①認知症ケアに対する心構え	認知症の原因とされているものへの理解と、種類、診断の基準、および認知症高齢者に対するアセスメントについて理解している。
	医学レベルからとらえた認知症と介護レベルからとらえた認知症について把握している。
	個々の状況における認知症高齢者への具体的な対応方法について把握している。
②認知症ケアの実施	利用者個々の認知症状について把握し、身体的症状および精神的症状に添ったケアを実施している。
	利用者の状態を観察、分析し、適切なケアの方法を選択している。
	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの違いを理解し、状況に応じて意識したコミュニケーション手法をとっている。
	行動障害の種類と原因について生活モデルの中から理解し、適切に対応している。
	利用者の心身の状況について家族に適切な情報提供をするとともに、家族からも生活歴(日常生活)についての聴き取りを行い、日常のケアに生かしている。
	観察と記録の重要性を認識し、きめ細かく記録し、必要に応じて迅速、適切に対応している。
	いつもと違う行動が見られた利用者を観察し、脅威や不安を感じない(利用者の表情・行動にネガティブな変化がない)よう近づき、声をかける等対応し、利用者の行動や表情から不安・不快感等を軽減させている。
	利用者の表情、感情表現、行動などいつもと違う様子に気づき、なぜそのような行動をしたかを確認し、記録している。(例:スタッフの対応、本人の生活環境の変化、心身状況、生活歴、価値観・嗜好、家族・他者との関係、家族から収集した情報等の確認、記録)
③認知症ケアの振り返り	ケアプランと連動している現場の介護方法について、改善提案している。
	チームとしての具体的アプローチを意識してケアを行っている。

施設介護サービス：環境整備：レベル1～2

能力細目	
①環境整備の準備	環境整備に必要な準備を行い、安全を確認している。
	清潔・不潔の違いや感染症防止について理解している。
	環境整備に関する施設方針を正確に理解している。
	施設内の危険箇所、施設状況について理解している。
②環境整備の実施	他のスタッフと連携し、施設内の装飾、レイアウト変更等の環境整備を適切に行っている。
	施設内の清潔保持に気を配り、居室、食堂、トイレ等の清掃を適切に行っている。
	施設のルールに則って洗濯物の洗濯・乾燥を行い、たたんで所定の場所に確実に収納している。
	施設のルールに則ってリネン交換を行い、ベッド周りの整理・整頓を行うなど、室内の清潔を保っている。
	利用者の生活を踏まえて物品の位置に配慮している。
	物品の点検を行い、必要に応じて改善、提案をしている。
③環境整備の振り返り	使用した用具の後片付けや整理整頓等を適切に行っている。
	利用者の立場に立って更に改善すべき点がないか自分なりに検証し、提案している。

施設介護サービス：施設内巡回、見守り：レベル１～２

能力細目	
①施設内巡回、 見守りの準備	事前に巡回のタイミング、回数、巡回時のチェック事項等について理解している。
	巡回、見守りに関するマニュアルを熟読し、疑問点は事前に解消している。
②施設内巡回、 見守りの実施	決められたルートで施設内巡回を行い、チェック事項についてもれなく確認している。
	巡回や見守りの際は、利用者と適宜コミュニケーションを図っている。
	利用者の不在、事故など異変に気づいた場合には、速やかに関係者に報告・連絡・相談している。
	定期巡回のみならず、利用者個々の状況に応じて臨機応変に対応している。
③施設内巡回、 見守り後の振り返り と情報共有	巡回や見守り時の留意事項や報告事項等について正確な情報を共有し、適切な観察、および報告・記録を行っている。

施設介護サービス：サービスの向上・改善：レベル１～２

能力細目	
①サービスの振り返り、自己評価	サービス計画に対する実施結果について振り返り、問題点や改善点を把握し、的確に上位者に報告している。
	利用者の立場に立って様々な角度からサービス内容を検証し、問題点を洗い出している。
	利用者個々の生活の視点から個別ケアの振り返りを行っている。
②ケアの方法等 サービス向上に 向けた提案	ケアマネジャーに対してサービス担当者会議の開催を促すような働きかけを行っている。
	ミーティングやカンファレンス、上位者への報告・連絡・相談等の機会を利用して、利用者の状況に合ったケアの方法や工夫等について、自分なりの提案を積極的に行っている。

施設介護サービス：利用者、家族への情報提供：レベル１～２

能力細目	
①介護に関する利用者、家族からの相談に対する対応	日頃から、利用者や家族と積極的にかかわりを持ち、親身になって対応している。
	提供する介護サービスを理解し、請求関連、地域包括ケア等のやや難しい質問についても適切に回答している。
	相談の内容及び関連情報を正確に把握・収集している。
	利用者からの相談内容は記録し、管理者や相談員等に正確に報告をし、橋渡しをしている。
	自分で対応してよいこととそうでないことを速やかに判断し、対応できない相談・苦情については、上位者に報告・連絡・相談して解決を図っている。
②利用者、家族に対する情報提供	利用者や家族に対し、施設のサービスに関するパンフレット等により基本情報の提供を行っている。
	利用者や家族に対して、地域社会資源の状況（フォーマルサービス、インフォーマルサービス等）についての基本情報の提供を行っている。
③利用者特性に応じたコミュニケーション	利用者が興味や関心を持てるような話題を取り上げ、利用者の話をよく聴き、コミュニケーションを適切に行っている。
	利用者の日頃の様子などの情報を記録し、家族に積極的に伝えている。
	認知症の利用者、視覚障害の利用者、聴覚障害・難聴の利用者などに対し、その特性に応じた声掛けやジェスチャーを行いながら、利用者の意向確認や介護内容の伝達を行っている。